



Y.Machida

THE TENNO SHO (SPRING)

第169回 天皇賞(春) (GI)

1着 賞220,000,000円 2着 88,000,000円 3着 55,000,000円 4着 33,000,000円 5着 22,000,000円
 付加賞 3,780,000円 1,080,000円 540,000円

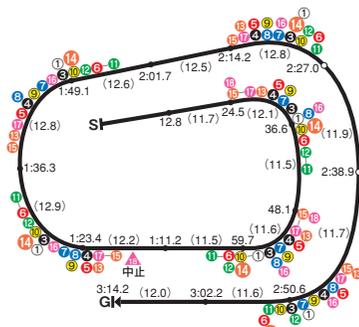


4歳以上、除未出走馬および未勝利馬
 負担重量 58%、牝馬2%減

2024.4.28 京都 晴・良 芝3200m (国際 種別)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑭	テオロイヤル	牡 6	58	菱田裕二	3:14.2	4-4-5-2	35.0	460(+2)	2.8①	岡田稲男(栗東)	118
2	⑤	ブルーザホン	牡 5	58	菅原明良	2	12-13-12-12	34.6	424(-2)	8.8⑤	吉岡辰弥(栗東)	115
3	⑥	ティープバンド	牡 7	58	幸 英明	½	2-2-2-1	35.6	508(-2)	27.5⑥	大久保龍志(栗東)	114
4	⑦	スマートファントム	牡 4	58	岩田望来	½	14-14-14-14	34.7	468(-2)	185.3⑭	石橋 守(栗東)	113
5	④	ウープスピード	牡 5	58	三浦皇成	1¼	12-11-12-10	35.1	502(±0)	39.8⑧	高木 登(美浦)	112
6	⑩	サヴォーナ	牡 4	58	池添謙一	クビ	4-4-3-4	35.8	532(-4)	45.7⑩	中竹和也(栗東)	112
7	⑦	タスティエーラ	牡 4	58	J.モレイラ	クビ	9-9-8-7	35.4	488(-6)	7.9④	堀 宣行(美浦)	112
8	⑧	メイショウブレグ	牡 5	58	酒井 学	2	16-16-16-15	35.1	468(-6)	238.0⑯	本田 優(栗東)	110
9	⑨	ゴールドプリンセス	牝 4	56	田口貴太	¾	10-11-10-12	35.6	482(+4)	178.9⑰	寺島 良(栗東)	105
10	③	プリウムドール	牝 6	56	和田竜二	2	6-6-5-5	36.4	476(+2)	141.6⑲	奥村 豊(栗東)	103
11	③	スカーフェイス	牡 8	58	松若風馬	3½	14-15-14-15	36.3	464(+2)	410.1⑳	中竹和也(栗東)	104
12	①	サリエラ	牝 5	56	武 豊	8	6-6-5-7	38.3	424(-8)	7.5③	国枝 栄(美浦)	92
13	⑩	マテンロウレオ	牡 5	58	横山典弘	½	1-1-1-2	38.9	478(-2)	48.7⑪	昆 貴(栗東)	95
14	⑥	チャックナイト	騾 6	58	鮫島克駿	7	8-8-8-10	39.4	482(-4)	39.8⑨	堀 宣行(美浦)	88
15	⑫	ドゥレツァ	牡 4	58	戸崎圭太	5	3-3-3-5	40.5	464(-8)	2.8②	尾関知人(美浦)	83
16	⑨	シルヴァーンソニック	牡 8	58	M.テムロ	¾	10-10-10-9	40.3	462(+8)	34.6⑦	池江泰寿(栗東)	82
牝	⑧	ハビ	牡 5	58	浜中 俊				486(+2)	199.1⑱	大久保龍志(栗東)	
競	⑫	ヒンドウタイムズ	騾 8	58	団野大成						斎藤崇史(栗東)	

単勝③280円(1¼%) 複勝⑩140円(1¼%) ⑤250円(4¼%) ⑥490円(7¼%) 枠連③-⑦1,030円(3¼%)
 馬連⑤-⑩1,070円(2¼%) ワイド⑤-⑩400円(2¼%) ⑥-⑩1,290円(15¼%) ⑤-⑥2,470円(27¼%)
 馬単⑨-⑤1,450円(3¼%) 3連複⑤-⑥-⑩7,750円(20¼%) 3連単⑩-⑤-⑥23,960円(68¼%)
 5重勝⑥⑬⑮⑤⑩7,417,060円(62票) 対象競走: 東京10R/京都10R/新潟11R/東京11R/京都11R



通過タイム: 600m 800m 1000m 上り: 800m 600m
 36.6 - 48.1 - 59.7 47.2 - 35.3

アラカルト

- ・菱田裕二騎手は天皇賞(春)初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算8勝目
- ・岡田稲男調教師は天皇賞(春)初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算9勝目
- ・リオンディーズ産駒はJRA重賞通算7勝目
- ・6歳馬の勝利は15年ゴールドシップに続く通算8回目
- ・ヒンドウタイムズは疾病(左前肢跛行)のため出走取消
- ・ハビは競走中に疾病(右前肢跛行)を発症したため1コーナーで競走中止
- ・非抽選馬 3頭(ウインエアフォルク、シュヴァリエローズ、メロディーレーン)

テオーロイヤル *TO Royal*

牡 鹿毛 2018.3.6生
北海道浦河町 三嶋牧場生産
馬主・小笹公也氏 栗東・岡田稲男厩舎
馬名意味・冠名+王にふさわしい

アルペンローズUSA系 A4

リオンディーズ 黒鹿毛 2013	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	シーザリオ 青毛 2002	スペシャルウィーク キプロプリミエールGB
メイショウオウヒ 黒鹿毛 2008	マンハッタンカフェ 青鹿毛 1998	サンデーサイレンスUSA サトルチェンジIRE
	アルペンローズUSA 黒鹿毛 1999	Kris S.
		Amizette

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA M3×S4
Mr.Prospector S4×M5 Hail to Reason M5×M5

INTERVIEW

三嶋健一郎氏(三嶋牧場)

この馬に携わった方々に感謝いたします

重賞連勝からの挑戦でしたが、今回はGIレースですので、この馬の能力を発揮して無事に走ってくれたらという思いで見えていました。オーナー、岡田厩舎の皆さん、菱田騎手など、この馬に携わっていただいた方々に感謝いたします。レース後に軽度の骨折が判明しましたが、夏休みとしてゆっくり休んでもらい、秋にはまた元気な姿で戻ってきてほしいと思います。

S.Suzuki



2年前、4連勝の勢いに乗って挑んだ春の天皇賞でも3着に食い込んだ本馬だが、その後、骨折のアクシデントに見舞われ、4歳の秋から約1年の長期休養を余儀なくされた。それでも復帰後は着実な上昇カーブを描き、ダイヤモンドS、阪神大賞典を連勝。この日も「現役屈指の長距離砲」との評価に違ぬ堂々の内容で勝利を飾り、デビュー13年目の菱田騎手ともども、嬉しいGI初制覇を果たした。

父リオンディーズ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央5戦2勝(朝日杯フューチュリティS_{G1}、弥生賞_{GII}2着)、最優秀2歳牡馬、17年から供用
〔代表産駒〕**テオーロイヤル**(本馬)、**リブレーザ**(兵庫チャンピオンシップ_{JRA}II)、**インダストリア**(ダービー卿チャレンジトロフィー_{GIII})、**アナザーリリック**(福島牝馬S_{GIII})、**ジャスティンロック**(京都2歳S_{GIII})、**サンライズホーク**(かきつばた記念_{JRA}III、サマーチャンピオン_{JRA}III、兵庫ゴールドトロフィー_{JRA}III)、**ロジリオン**(クロッカスS・L、京王杯2歳S_{GII}2着、NHKマイルC_{G1}3着)、**ディオ**(東風S・L)、**オタルエパー**(ラピスラズリS・L、ファルコンS_{GIII}3着)

母メイショウオウヒ

北海道浦河町 三嶋牧場生産 中央17戦0勝、地方5戦3勝
トレースイスラ(15 牝父サウスヴィグラスUSA)地方30戦5勝
(16 不受胎)

メイショウハリオ(17 牝父パイロUSA)中央18戦6勝(みやこS_{GIII}、マーチS_{GIII}、薫風S、小倉城特別、ジュライS・L2着、フェブラリーS_{G1}3着)、地方6戦3勝(帝王賞_{JRA}I2回、かしわ記念_{JRA}I、東京大賞典_{G1}3着) ㊟

テオーロイヤル 本馬(18 牝父リオンディーズ)中央18戦8勝(天皇賞(春)_{G1}、阪神大賞典_{GII}、ダイヤモンドS_{GIII}2回、尼崎S、兵庫特別、ステイヤーズS_{GII}2着、天皇賞(春)_{G1}3着) 獲得総賞金518,266,000円
メイショウカミヨシ(19 牝父ルーラーシップ)中央4戦0勝、地方3戦0勝
メイショウオウカ(20 牝父モーリス)中央5戦0勝、地方1戦0勝
メイショウソウタ(21 牝父ドレフォンUSA)中央4戦0勝 ㊟
(22 牝父ブリックスアンドモルタルUSA)
(23 牝父レイデオロ)
(24 牝父ブリックスアンドモルタルUSA)

祖母アルペンローズUSA

北米0勝。03年輸入、17年死亡
メイショウフェヴ(05 牝父フレンチデビュティUSA)中央0勝、地方2勝、メイショウバルボン(マーガレットS_{OP}3着)、メイショウチデ(小倉サマージャンプ_{J-GIII}2着、東京ジャンプS_{J-GIII}3着)の母
メイショウオウヒ(08 前出)
メイショウカドマツ(09 牝父ダイワメジャー)中央5勝(早春S、松籟S、精進湖特別、寒竹賞、アルゼンチン共和国杯_{G2}2着、ダイヤモンドS_{GIII}3着)
メイショウキョウジ(15 牝父ダイワメジャー)中央3勝(船橋S、巖島特別、北九州短距離S_{OP}2着)、障害1勝、地方2勝 ㊟

堂々たる走りで長距離王の称号を襲名

3000級級の長距離重賞を連勝中のテオーロイヤルが、始動戦の金鯱賞(2着)をひと叩きされた菊花賞馬ドゥレットツアか。故障による休養から立ち直り、充実期を迎えた印象の6歳馬と、GI2勝目を狙う4歳馬が「双壁」と目された春の天皇賞。同じオッズ単勝2・8倍で1、2番人気に支持された両馬の明暗は大きく分かれ、15着に大敗したドゥレットツア(後口、骨折が判明)を尻目にテオーロイヤルが横綱相撲といえる取り口で完勝、長距離王の称号を襲名した。

前哨戦の日経賞で大逃げを打ち、場内を沸かせたマテンロウレオが大方の予想通りにレースを先導。ドゥレットツアは手綱を押し飛ばし出したディーブボンドの外、離れた2、3番手で折り合いに専念し、テオーロイヤルと菱田裕一騎手のコンビはこれをマークするように背後を進む。3番人気に支持された牝馬サリエラは好位勢の直後を追走。ダービー馬タスティーエラは中団のインで脚を溜め、仕掛けのタイミングを窺った。

2周目の坂の上りに差し掛かると、単騎で軽快に飛ばしたマテンロウレオに後続が接近。なかでも過去3年の2着馬ディーブボンドが意欲的に先頭へ並びかけ、坂の下りから一気にペースが上がる。ここで失速したドゥレットツアに対し、菱田騎手は十分な手応えをキープしたまま前に迫り、直線に向くと早々に先頭へ。抜け出してからもしつかりとした末脚を発揮したテオーロイヤルは、後方から追い込んだプロザホーンの強襲も寄せ付けず、危ないのないフィニッシュを決めた。